

つむら まさお
津村 正男

年初に思うこと

●基幹労連・事務局長

ご安全に！

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言も昨年9月末に解除され、感染者数も減少、小康状態を保っています。年末年始の帰省による人流の増加が第6波につながらないように…皆さんにとって、2022年が穏やかで実り多き一年となるよう心から願うばかりです。

取り巻く環境

2020年2月頃から拡大しはじめた新型コロナウイルス感染症、あれから2年近くが経過しましたが、感染拡大は私たちの命と生活を脅かし続けています。この間、感染リスクに晒されながら献身的な対応をされてきた医療従事者の皆さんをはじめ、私たちの生活と社会を守り支えていただいているエッセンシャルワーカーの皆さんには、感謝の念に堪えません。

私たちを取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症による経済・社会への影響もさることながら、新冷戦といわれる米中貿易摩擦、資源・エネルギー価格の高騰など、従来からの課題とも相まって引き続き厳しい環境下にあり、先行きも不透明といわざるを得ません。また、2050年の脱炭素社会の実現を目指すカーボンニュートラルは、あまりにも現状との乖離が大きく産業界にとっても大きな課題であり、投資費用や技術革新とそのための人材育成を含め現実的な対応が必要です。雇用と生活を守りながら、持続可能な経済・社会を作りあげるためには、政労使・産官学を拳

げたオールジャパンでの取り組みが求められます。

税や社会保障などを含め、今なすべきことを先送りせず、真摯に向き合い解決していかなければなりません。

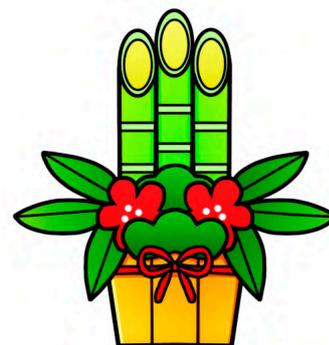
人への投資～アクティブプランの取り組み

いよいよ春闘（基幹労連では「アクティブプラン（AP）」と言い、今年「AP22春季取り組み」となります）が始まります。

基幹労連では、2年をひとつのパッケージとして取り組みを進めており、今年、賃金改善、年間一時金、ワークライフバランスの実現、65歳現役社会の実現に向けた労働環境の構築など、労働条件全般を総合的に改善していくことを目指す「総合改善年度」として取り組みます。

基幹労連の関係する企業では、引き続き厳しい経営状況となっている企業がある一方、多くの企業で一定程度の収益確保を見込んでいます。産業・企業の競争力強化につなげるべく生産性を向上させ、将来にわたって魅力ある産業・企業であり続けるためには、職場全体の活力発揮が必要不可欠です。また、高技能長期能力蓄積型産業である基幹労連にとって、将来にわたる優秀な人材の確保と定着は、産業・企業の発展と現場力の維持・強化の観点から重要な課題です。

AP22春季取り組みにおいては、基幹労連の基本理念である「魅力ある労働条件づくり」と「産業・企業の競争力強化」の好循環の創造、その実現に向けて、労使でしっかり



話し合い、積極的かつ継続的な「人への投資」に向けた取り組みを展開していかなければなりません。AP22春季取り組みの成功に向け、相乗効果が発揮できるよう、「強固な団結 『人への投資』で 確かな未来へ！」のスローガンのもと、基幹労連加盟組合全体が連携を密にした取り組みを展開したいと思います。

政策実現～結成20年に向けて

今期の運動方針のスローガンは、「強固な団結 変化を乗り越え確かな未来」です。基幹労連は、職場第一線の役員が直接組合員と向き合い“生の声で伝え、生の声を聴き、そして生の思いを伝える”組合運動の原点である、いわゆる職場集会の実施を推進する「JBU原点活動」に取り組んできました。また、過去の参議院議員選挙の結果を踏まえ2017年に策定した「今後の政策実現に向けて～組織力の再生戦略」に基づき、組織力量の強化にも努めてきました。

変わりゆく経済・社会の中で、産業・企業が抱える課題や私たちの雇用と生活の安心・安定のためには、政治とのかかわりが必要不可欠です。基幹労連は、7月に施行される参議院議員選挙に「村田きょうこ」を擁立することを確認し、組合員への理解・浸透活動に取り組んでいます。捲土重来を期し、JAMの皆さんのお力添えもいただきながら、私たちの代表として必ず国政の場へ送り込むという強い決意で最後まで頑張ります。そして、来年9月の基幹労連結成20年へとつなげて

いきたいと思っています。

基幹労連は、2003年9月、鉄鋼労連、造船重機労連、非鉄連合の3産別が統合・結成され、その後、建設連合との統合を経て現在に至っています。統合の際に作られた基幹労連のロゴは、「地球規模の視野を持ち、連帯・創造・向上を旨とする」ものです。先達の思いをしっかりと承継し、頼れる産別・誇れる産別にしていければと思います。

結びに

昨年9月の定期大会は、役員の改選時期でもあり、できれば面着・リアル開催したかったのですが、コロナ禍ということで残念ながらWEBでの開催となりました。このタイミングで退任された役員も多くおられ、これまで基幹労連運動を支え育てていただいた加盟組合の役員の皆さんに、感謝の気持ちとご苦勞様でしたの一言を直接、お伝え出来なかったのが心残りではありません。

このコロナ禍がいつまで続くのか分かりませんが、今のような状況であっても可能な限り「Face to face」の活動を心掛けたいと思いますし、基幹労連の事務局長として引き続き信任を頂きましたので、加盟組合の皆さんの思いに応え、そしてお役に立てるように努めてまいります。

今年も「初心忘るべからず」で活動してまいります。共に頑張りましょう！

ご安全に！！